



語り部通信

令和4年度冬号（通算第35号）

福井市歴史ボランティア「語り部」

ホップ ステップ ジャンプ

明けましておめでとうございます。2023年は癸卯(みずのと)の年です。癸(みずのと)は生命の終わり、そして新たな命が始まる「春の手前」を意味するそうです。卯(う)はウサギが跳ねるように大きなステップを踏み出したり、草木の芽吹く様子を表します。つまり、2023年は『これまでの生活が一区切りし、春が訪れ、草木が成長するように勢いよく飛躍していく年』私たち語り部もコロナ禍で活動できなかった分、研修やグループ・個人学習でためてきたチカラを今年はどう活用していきましょう。

■旧北陸道・細呂木地区・加賀市橋立方面 一日研修

12月4日(日)福井市北部から旧北陸道を辿り一里塚、地藏堂・追分などの点在する史跡の案内を受けながら旧金津町の細呂木・加賀の橋立に研修に出かけました。多賀谷左近三経公廟所の参拝と地元ガイドの交流北前船主の故郷加賀橋立では、笏谷石の石垣と板塀や赤瓦屋根に迷路のような細道、広大な船主居と跡地の街並みを散策し6隻もの北前船で巨万の富を築いた酒谷長兵衛旧邸の北前の里資料館を見学し帰路につきました。



橋立地区のまちなみ



細呂木地区のガイド案内

■朝倉氏遺跡研修

11月13日(日)

一乗谷朝倉氏遺跡の平面復原地区と朝倉氏遺跡城戸ノ内地区の浄覚寺を訪れました。雲正寺・吉野本・奥間野・赤湊の平面復原地区は新しくできた朝倉氏遺跡博物館内展示のジオラマコーナーの場所になります。博物館のジオラマを見学してから、この地区を歩くとより戦国町並みが体感できると思います。

浄覚寺さんでは、住職さんよりお寺の縁起などのお話を伺いました。一乗谷の秋の自然を満喫しながらとても気持ちの良い研修でした。



平面復原地区



浄覚寺

■北庄城発掘に関する研修

11月24日25日

北ノ庄城址の発掘に携われた福井市立郷土歴史博物館の坂館長に現地でも当時の発掘のお話を伺いました。平成3年に発掘の調査に入った当時の話をお聴きしながら、遺跡をどう残していくか、当時の問題点を、今残っている石垣と共にわかりやすく説明していただき、当時の大変さが伝わってきました。柴田勝家の造った北ノ庄城の上に結城秀康の北ノ庄城が造られている。柴田勝家の北ノ庄城を遺跡として残すことは、結城秀康の北ノ庄城の遺構を壊すことにもなるので、柴田勝家の北ノ庄城ばかりを優先出来ないという話は、発掘調査の難しさを物語っていました。また語り部の皆さんには「歴史ロマンを語っていただきたい」とも。「ロマンとはいったい何か、歴史から人は何をイメージし何を求めているのでしょうか、事実を事実だけで伝えても面白くない」と。



グループ勉強会紹介

■今、古墳グループがアツい！

(語り部は、グループに分かれて勉強会を開いています)

10月2日(日)足羽山の古墳巡りで日頃の学習成果を発表しました。2つの班に分かれ出発。古墳グループ全員野球の精神でそれぞれが担当を持ち解説。チームワークもバッチリでした。巡った古墳は、饅頭山1号2号墳、宝石山古墳、柄鏡塚古墳、大塚山古墳、国尾古墳、稻荷山古墳、二葉古墳、山頂古墳、龍ヶ岡古墳の10基でした。



手作りの表示板を使って丁寧な解説



ひとり一役全員で頑張りました



足羽山の古墳について

語り部の日常の活動をブログで紹介しています。

うららのまち「語り部」ふくい



活動などを紹介しています。
写真はあわら市にある
多賀谷左近三経公の廟所です。



ガイドや歴史講座のご案内
歴naviふくい

「一乗谷朝倉遺跡」、「養浩館庭園」、「福井城址」などの福井市内の史跡や、ご希望のコースをご案内します。

語り部と学ぶ歴史講座のテーマ名も紹介されています。歴史ガイドの申し込みや歴史講座の講師依頼もこちらへ



YouTube

語り部が福井の歴史を紹介しています。



YouTubeでいろいろなことを発信しています。
写真は大安禅寺の千畳敷の案内です。



よもやま話

「突然」を気にしない気さくなお殿様

平野 和夫

幕末期の文久2年（1862）12月5日、35歳の春嶽公は福井藩江戸上屋敷常盤橋邸で坂本龍馬の他2名の土佐藩士と対面し海防策を語り合っている。この数日前の朝、坂本龍馬らは突然春嶽公に面会を求めて来邸したが、春嶽公は登城前であり、対応した側用人の中根鞆負が報告を行い、後日の面会を許すことの執り成しを行っている。

さて、春嶽公はこの時政事総裁職にあった。現在で言うなれば総理大臣の職にある人で、突然訪れた見ず知らずの者に会うとは驚くべきこと。しかも龍馬は土佐の脱藩浪士である。

12月9日には龍馬は春嶽公の紹介で勝海舟に会い活路を開くことになる。龍馬の勇気も凄いが、それを受け入れた春嶽公の心の広さには感服せずにはいられない。

これより時代をさかのぼること約20年、天保14年（1843）、16歳で初入国した春嶽公は海防踏査、民情視察として赤萩村（南越前町）を訪ねた際、ひれ伏す老婆に突然声をかけ平素の食事について尋ねこれを食したという。とても有名な話である。

また、翌年、弘化元年（1844）、春嶽公17歳、民情視察の際、米町の富商の山口家を突然訪れた。予告なしの訪問に当主は勿論、付近の町屋一帯が驚きに沸いたという。

山口家はこれを山口家御成図とし橘曙覧に賛を願い当家の誉れとしている。

最後に記すのは、元治2年（1865）、春嶽公が野遊びの中、中根鞆負が案内する橘曙覧の家を突然訪問したときのこと。粗末な家を「藁屋と言うのはふさわしくない。世を忍んでこのような生活をしているのであろうから“忍ぶの屋”と改めるがよい」と伝える。

上記は、誰でもご存じの事柄4点を紹介したにすぎませんが、気さくな人柄の春嶽公、寛容性を備えた方春嶽公と理解し、ふと身近で親しみを感じてしまうのです。



福井市毛矢にある龍馬の歌碑



正室 勇姫



松平春嶽公

（編集後記）

駅前再開発事業B街区のところから下馬門の石垣が出土！
切り込みハギのとてもきれいな青緑色の笏谷石が150年の
眠りから覚めました。残したいものですねー！！

【発行】福井市歴史ボランティア「語り部」
（公財）歴史のみえるまちづくり協会